
ゲゲゲの鬼太郎 X P

ごはんエロス

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

ゲゲゲの鬼太郎 X P

【Nコード】

N9431B

【作者名】

ごほんエロス

【あらすじ】

ねずみ男が、芳江ちゃんという小学生にコテンパンにされるといふ話。夢子ちゃんをよく襲って、というのはアニメでもあったけど、相手は現代っ子なので、昔のノリが通用せず、ギッタングッタンに叩きのめされ病院送り。正直、B級筒井康隆ですよ。

(前書き)

思えば、ゲゲゲの鬼太郎の初期のと後期のと、どっちがいいかと問われれば困る。どっちにもよさがある。初期のドロドロした感じ・・・誕生した時の奴とかたまらんねえ。すごく萌える。しかし、昔、ボンボンで読んだポップなノリの妖怪大戦争も、あれはあれで萌えられた。難しい。ただ一つ言えることは、「河童の三平」の方が面白いということ。これもまた挑戦してみたい。でも、まずは、鬼太郎をどうぞ。はじまり、始まりイ。それと、言つとくけど、文中にミツキーが出てくるけど、いや、ミツキーが登場するわけやないで。ミツキーという言葉がセリフに出てくるだけで、しかも、ミツキーマ*スってフルネームで書かないように配慮したし、それでもデイズニーは何か言ってくるつちゅうのか。くそデイズニーめ。しかし、デイズニーランドの従業員の夢を演出するためのたゆまない努力を考えれば、頭が下がるし、くそ！ 著作権め！ 俺は著作権を侵害されるのはカンベンならんが、するのを阻害されるのもカンベンならんのじゃー

ああああああ。といいつつ、くそ。手塚作品の後ろのページみたいになってきやがったな。めんどくせえ。ただ、確かに日本は著作権がゆるすぎるのかもしれない。他人のふんどしで金を取るのによくはない。有名税。人気の証拠。わかるぜ。ドラえもん、東南アジアで、ものすごい海賊版のドラえもん活躍してるけど、あれはいいんだ。だって、すでにドラちゃんもん。どっからどう見てもちやうもん。言葉遣い荒いし、ツノ生えとるし、げらげらげら。しかし、ライオンキングは許せん。でも、手塚もデイズニーをパクつとるかからおあいこだろ、文化交流だろ、違う、違う、違う、手塚のはおもしろいからいいんだ、ライオンキングはつまらない、わかるだろ、つまり・・・(自主規制。誰かごはんの口を封じよ)

ねずみ男は、アスファルトにのたうち回りながら叫んだ。きゃんたま丸見えじゃん。

「くっおおお。現代っ子がこんなにもクールだとは知らなんだああああああああああああ」

芳江はちよつと心配になってきた。

「お、おじさん。大丈夫？ 病院いく？」

ねずみは芳江ちゃんを見上げながら、つぶやいた。

「うっう。俺もアニメの世界じゃちつとは知れた男なのに何でこんな目に……」

「え！ おじさん！ アニメ役者さんなの！」

急に芳江の目が輝き始めた。

「う、うん。今はやってないけど、昔、ねずみ男という役でね、アニメ界ではけっこう人気……」

「え！ ねずみ……ミツキー!？」

や、やばい。このおんなかん違いしとる……

薄れ行く意識の中で、ねずみは思った。

「でもミツキーにしてはかわいくないわねえ……なんか、くさいし……」

カチンときたが立てない。声が出ない。

芳江ちゃんは腕を組んで考えた。

「でも、テレビとプライベートは別だというしなあ……ナインテインの岡村さんも自室じゃ暗いってゆっし……」

芳江ちゃんは、ランドセルをごそごそまさぐって、ノートとボールペンを出した。

「おじちゃん！ サインちょーだい！」

「うう……このおんな殺してるか……しかし、動けん……くほっ。」

げっげげげのげー。

向こうから誰かが歩いてくる。

目玉のカブリものを被った裸のオヤジと下駄を履いた少年だ。親子であろう。父親の方は二メートルくらいある。しかし、なぜ裸？捕まるぞ。

「あ。父さん。また、ねずみの奴が女の子に悪さを」

「うぬ。あのロリコン野郎。おい。たけし。こらしめるぞ」

「はい、父さん」

二人は、芳江ちゃんの方に向かって走り出した。

「きゃああああああああああああああああ」

芳江ちゃんがビビツたのも無理はない。なにしろ、おい、裸のおつさんが走ってくるんだからな。そりゃな。

「いやああああ。へんたああああああああい」

「なにごと」

巡回中の警官。芳江ちゃん。芳江ちゃんのお母さん。裸のおつさん。少年。事情徴集。ねずみは、豊田記念病院。葵大橋の向こうにある……ね。

「おい、とりあえず、おっさん、服着ろ」

「すんまへん……」

「さてと……聞きたいことは山ほどあるが……」

「はい……」

おやじはしおらしくしていた。

「まず、その頭に被ってる変な丸いもの取れ」

「……」

芳江ちゃんのお母さんが苦笑いしていた。

(後書き)

いかがでしたか。怖いですねえ、妖怪って・・・(違うやろ!)しかし、ある意味、人間も妖怪的などこあるし、その人間の不気味さが、水木先生や昔の人の想像力を喚起し数々のチャーミングな妖怪を生み出した、とも考えられるわけでなかなか人間ちゅうのもあなどれぬもんですな、ほっほっほ・・・

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9431b/>

ゲゲゲの鬼太郎 X P

2009年6月15日22時02分発行